

梅木 加津子 議員

(一問一答方式)



- ①長浜港内港埋立事業について
- ②大洲市のデジタル推進について
- ③高齢者への補聴器補助について
- ④暑さ対策について
- ⑤生活道路の維持管理などについて
- ⑥公共交通の充実・タクシーへの支援について
- ⑦地域の商店支援と企業支援について
- ⑧9億円の国債等の購入について
- ⑨中学校の部活動の地域移行について

プレミアム付デジタル商品券について

問 物価高騰対策としてプレミアム付デジタル商品券が発売されたが、発行口数4万口に対する現時点での申込状況を教えて欲しい。また、今後どのように対応されるのか伺いたい。

答 プレミアム付デジタル商品券事業は7月1日から申込を開始し、申込状況は申込者数が2,360人、申込口数は1万301口となっています。この商品券事業の周知については、広報おおず、市の公式ホームページ、公式LINE、市内の公共施設へのチラシの掲示をはじめ、大洲市では初めての試みとなる大手検索サイトやSNSへのウェブ広告の掲載を行ってきました。

今後2次販売の実施を予定していますが、1次販売分の購入状況を考慮しながら、2次販売での購入口数や販売時期、周知方法などの検討を始めたところです。

なお、この事業については、低所得者世帯を対象とした家計応援給付金と併せて、デジタル決済の普及促進及び市内商工業者の支援を目的として実施しているものです。今後は利用可能店舗の増加、幅広い世代への周知方法の検討に加え、スマートフォン操作が苦手な方への操作支援を継続して実施し、多くの方にデジタル決済に慣れ親しんでいただくとともに、市内の消費喚起を図っていきたいと考えています。

高齢者への補聴器補助について

問 高齢者の難聴対策として、補聴器購入補助が契機となり耳鼻科へ通院し、早期の対応に繋がることもあると言われている。補助を行っている自治体が全国的に増加しているが、大洲市での検討状況について伺いたい。

答 補聴器を活用することは、人とのコミュニケーションによる社会参加や生活の質の向上、また、認知機能低下の予防に期待が持てると考えていますが、たとえ購入したとしても補聴器になじめず使わなくなる高齢者も少なくないこと、また、購入後のトレーニング、定期的なメンテナンスなど継続的なアフターケアが必要であることを十分に理解いただくことも重要であることから、引き続き慎重に検討を行いたいと考えています。

スポーツ施設における暑さ対策について

問 子どもたちは夏のプールを毎年楽しみにしているが、学校のプールが利用できない地区もある。また、平野運動公園の50メートルプールは修繕されず放置されているが、今後の対応について伺いたい。

答 平野運動公園のプールは、八幡浜・大洲地区広域市町村圏組合の関係5市町が運営する施設ですが、施設の維持などの実務的な管理運営は全て本市が担っています。

現在は流水プールと幼児用プールの稼働により運営を行っており、50メートルプールとスライダープールは、経年劣化により利用者の安全確保が困難であることなどから利用を中止しています。

昭和56年の供用開始から44年が経過し、施設の老朽化が進んでおり、50メートルプールやスライダープールを改修するには多額の経費を要します。加えて、県内の公営プールでも監視業務の人員不足が深刻となっており、加速する少子化や人口減少の状況を踏まえると、現状の稼働施設の維持修繕によりサービス水準を維持しながら持続的な施設運営を行うことが最適であると考えています。